

河童の研究



外

M副長新聞

今回は文字がやたら多いー

2009.2.20
第19号

私は
チーム・マイナス6%です

最近、気になるコマーシャル

NTTドコモのコマーシャル Answer「家族だから(家族への通話無料)」篇で、おじいちゃん(山崎努氏)と孫娘(成海璃子さん)が携帯電話で話していて、孫娘が様々な質問をおじいちゃんに聞いていますが、公園の池の橋の上で「池と沼の違いってなに?」と聞いておじいちゃんは「河童がいるかどうか」と答えます。国語辞典(大辞林)によると、池は「くぼ地に自然に水がたまつた所。また、地面を掘って水をためた所。ふつう湖沼より小さいものをいう」で、沼は「湖より浅い水域。ふつう、水深は5メートル以内」だそうです。ちなみに、湖は「周囲を陸地で囲まれたくぼ地に水をたたえる水域。池や沼よりは大きく、沿岸植物の侵入できない深さのもので、ふつう最深部が5メートル以上をいう」とのことです。これを作ったCMディレクターは牛久出身なのかな? 牛久市民は、間違いなく「河童がいるから。」と即答するであろう。てな訳で、今回は『河童(かっぱ)』を取り上げてみよう。

河童(かっぱ)は、日本の妖怪・水陸両生の想像上の動物で、身長約1メートル、口先がとがり、頭上に皿と呼ばれる窪みがあって少量の水を蓄える。背中には甲羅がある。人や他の動物を水中に引き入れて生き血を吸い、尻から腸(尻子玉)を抜くと言われている。または確認動物(Unidentified Mysterious Animalの頭文字をとってUMA(ユーマ))。一般的には「かっぱ」は、「かわ(川)」に「わらは(童)」の変化形「わっぱ」が複合した「かわわっぱ」が変化したものたそう。一部の地域では河太郎(かわたろう)とも言う。南九州では「がらっぱ」と言うが、ほぼ日本全国で伝説があり、その呼び名や形状も各地方によって異なるようだが、キュウリが好物なのは共通している。鬼、天狗と並んで日本の妖怪の中で最も有名なものの一つとされる。イタリアのスポーツ用品専門のブランドのkappa(かっぱ)社は、ギリシャ語アルファベットの第10字カッパ(K, κ)から取っており、河童には無関係すである。すなわち、イタリアには河童はいないようである。時折、常磐線下り列車内においてカッパサミット(一般的には通勤の帰りとも言う)が開かれている。参加者は、岩手県遠野のカッパ(ボーイ隊長)と、鹿児島県ひしかりガラッパ王国のガラッパ(M副長)である。牛久に各地のカッパが大使として送り込まれて来ているようである。他の団関係者でカッパ伝説地出身者の場合は申告願いたい。参考までに【河童のふるさとづくり全国連絡協議会】と言う組織がある(あった?)ようだが、登録市町村は、以下のとおりである。北海道名寄市、青森県大畑町、宮城県色麻町、涌谷町、茨城県牛久市、栃木県栗山村、高知県高知市、島根県桜江町、福岡県田主丸町、佐賀県佐賀市、北波多村、熊本県八代市、鹿児島県川内市、菱刈町(市町村合併により変更している可能性あり)ちなみに、発起人は、我が出身地の菱刈町(現在伊佐市)の久保町長(元)である。



牛久沼のカッパの銅像。なぜか2体あり、2・3年前に、カッパ少年と子犬像ができた。かなりリアルで怖い。

ガラッパ公園の「ひしかりガラッパ王国」のガラッパ(カッパ)たち



日本のカッパのボスカ? その名も『ガラッパ大王』



ガラッパ大王の奥さんの佐賀からやってきたみずえちゃん。とっても仲がいいそう。でも、大王がやけに青すぎるぞ!

すべり台もガラッパなのだ。



自然石のガラッパ。人間の手は一切加えられていない。

遠野の「カッパ捕獲許可書」 * ネット販売もあるが講評につき売切れ中だそうです。

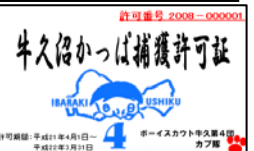


たぶん200円(送料別)
ボーイ隊長帰省の際に頼むと送料は無料?

かっぱ 捕獲7ヶ条

- 1.カッパは生け捕りにして、体に傷を付けないで捕まえる事。
- 2.頭の皿を傷つけず、皿の中の水をこぼさないで捕まえる事。
- 3.捕獲場所は、カッパ淵に限ること。
- 4.捕まえるカッパは、真っ赤な顔と大きな口である事。
- 5.金具を使った道具で捕まえない事。
- 6.餌は、新鮮な野菜を使って捕まえる事。

遠野観光協会ははこちらから <http://www.tonojikan.jp/>



上は、M副長が上手に流用(パクリじゃないぞー)した『牛久沼かっぱ捕獲許可書』である。地域復興のため商工会青年部に提案したが興味は薄いようである。今度は観光協会に提案してみよう。欲しいスカウトがいたら作ってやる。『牛久沼かっぱ研究許可書』もあるぞ!